

## 大手ドラッグストアの物流拠点に大型洗車機を設置。 洗車コストを削減するとともに、リクルートにも活用

### 株式会社丸和運輸機関様

本社 埼玉県吉川市旭7-1  
支店・営業所 137カ所(グループ含む)  
資本金 26億5,700万円(2019年3月末現在)  
売上高 855億9,000万円(2019年3月期)



株式会社丸和運輸機関様では、近年のドライバー不足こそ“勝機”と捉え、従来の低温食品やドラッグストア向けの3PL事業に加え、軽車両ドライバーの開業支援や関東圏での独自のラストワンマイル配送網を構築するなど、業界で注目を集めています。

### これまでガソリンスタンドを利用するか、手動式の洗車装置で対応



創業の地である埼玉県吉川市のAZ-COM吉川MK共配センターに初導入した大型洗車機。近隣の営業所や子会社のトラックも洗車機を利用している。

本社ビルに隣接するAZ-COM吉川MK共配センターは、敷地面積2万1,556m<sup>2</sup>、延べ床面積3万9,466m<sup>2</sup>、地上5階建て、トラックバース65カ所を持つ大規模施設で、大手ドラッグストアの専用センターとして運営。全国にある同取引先のセンターの中で、大阪に次いで2番目に規模が大きい施設です。

大型洗車機は敷地内の自社トラックが利用するほか、周辺にも同社の営業所や子会社があります。その自社トラックも洗車機を利用することから、対象となる台数は約200台になります。

これらのトラックは、これまで周辺のガソリンスタンドまで走行して洗車機を利用するか、ドライバーが敷地内にある手動式の洗車装置を使って手洗いしていました。そのため、洗車にかかる時間が1時間強、その上、拭き上げ作業も必要なことから、場合によってはトータルの所要時間が2時間近くになることもありました。

### POINT

- 予備洗浄を行うことで、より効果的な洗車を実現
- 清潔なトラックで顧客への期待に応える
- 労働環境改善に加え、中途採用にも効果を発揮



総務部長の蜂谷 隆様(写真左)と  
運行システム運営部 課長の大森崇弘様(写真右)

### 200台分の洗車コストを削減するため自社保有を決断

「洗車機を導入する前は、付帯作業である洗車にドライバーの作業負荷が多くかかっていました。また、週1回ガソリンスタンドで洗車機を利用すると、毎月の費用もかなりの金額となり、初期投資の費用をかけても社内で洗車機を設置する方がコスト的にメリットがあると判断しました」(総務部 部長 蜂谷 隆様)

また、洗車機を使う前に、手動式の高压洗浄機で、あらかじめタイヤフェンダー やシャーシなど下回りを予備洗浄することで、より効果的な洗車を実現。洗車に要する時間も予備洗浄で約5分、洗車機で約5分と、拭き上げ時間を含めて所要時間を30分程度に短縮しました。

「トラックが汚れたまま走らせていては、荷物を届けるという行為は一緒でも、それを見た顧客や街の人の抱く印象は決して良くありません。そのため洗車に気を遣うことは当然のことです」(運行システム運営部 課長 大森崇弘様)

リクルートにも効果を発揮しています。「募集をかけると応募者は洗車機が配置されているのを見て、この会社は職場環境が整っていると好感をもっててくれます。このため、ドライバーを集めやすくなり、今年は100人以上のドライバーを中途採用できました。」(同)同社では現在、洗車機を利用できるのは社員に限っていますが今後は、パートナー企業にも利用できるようにしていく方針です。



レール横に設置した高圧洗浄機。洗車前に下回りを予備洗浄することで、より効果的な洗車が可能。



洗車受付パネルはプリペイドカード(セルフ)仕様。洗車コースによってプリカを使い分けている。



上面や後面など洗浄部選択もボタン1つで行える。



液晶タッチパネルは、稼働状況の表示、エラーメッセージの確認やメンテナンスの設定が行える。



キャブ上部、車両前面部もしっかりと、かつスピーディにブラッシング



軽油の計量器。国内ではまだ導入がめずらしい屋外タンク(奥)を採用している。

